

### (c) 動詞の無屈折語化傾向

英語は無屈折語化していく。英語には名詞の文法上の性や格の消失や軽減化傾向が目立ち、形容詞の比較級や最上級にmoreやmostを使う頻度と傾向が高くなるなど、無屈折語へ向かう変化の傾向があちこち見られる。

無屈折語への変化は英語において過去何千年にもわたって進行し、中国語やベトナム語では完結したものとなっている(P.285『英語発達小史』Henry Bradley)。

現代英語において本来古英語にあった仮定法は、wereおよび仮定法現在を除けばその痕跡はもはや見とめられなくなっているが、これもまた無屈折化傾向に沿ったものであると考えられる。仮定法は最近のアメリカ英語においては復活の兆がみられるともいわれる。これは、仮定法の盛衰が文法形式上の変化であり、衰退したといわれてもその意味する世界がなくなったわけではないことを示している。仮定法に過去形を使うのは心の世界を過去形で表わすことと実質的に等しい。